

平成30年度 大垣市立西中学校 学校評価

◎教員評価と生徒評価の各項目について4段階評価をしています。 ※数値は4と3の割合

4)できている 3)ほぼできている 2)あまりできていない 1)ほとんどできていない (%)

重点	中期経営目標	短期経営目標	教員評価項目	学期末	生徒評価項目	学期末	目標値	自己評価	学校関係者評価	改善策
確かな学力の育成	基礎学力の定着と応用	どの子も「学び合っている」充実感が味わえる授業改善に取り組む。	授業では、学習課題を設定し、見通しをもたせる中で個人追求できる場を設定している。	95%	課題の解決に向けて、自分で考え、取りくめているか。	88%	90	・授業の導入では、生徒が「なぜ」「どうして」と疑問や驚きをもてるような資料提示の工夫を行った。学習課題解決に向けて見通しを持たせることで、意欲につながった。	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の展開時での交流では、活動ありきになっている。交流する目的・意図を明確にした指導方法の工夫を今後期待する。 ・子どもを軸とした授業の展開を実施している。導入時に子どもが問題意識をもち、自ら学習課題がもてるよう資料提示の工夫がきている。授業の終末時において、学びの実感を生むために、自分で自分の学びの過程を振り返りのことができるよう自己評価のあり方を考えていく必要がある。 ・家庭学習の充実を図るために、学校全体で取組を行っている成果は出てきている。今後は、家庭学習の内容の見直しを含め、学習指導部が中心となり、家庭学習習慣が身につけていない生徒に対しての指導の工夫が必要である。 	・生徒の課題意識を高めるため、既習事項とのつながり、資料提示、実験等から生徒自らが「問い」を生み出せるような授業導入を工夫する。
			資料や文章、話の組立てなど工夫し、教科の特性を生かした話し方の指導をしている。	80%	資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表しているか。	71%	85	・生徒は自分の考えを持つことができるようになってきたが、その考えを仲間に分かりやすいように伝えることに弱さがある。		・相手を意識した話し方の定着を図る中で、必然的に生まれる表現の工夫のスキルを教えながら、場に応じて活用できるようにする。
			話し合う活動では、教科ごとの見方・考え方のポイントを示し、自分の考えが深まったり広がったりしたかを振り返る場を設定している。	65%	話し合う活動は、考えを深めたり、広げたりできているか。	85%	85	・話し合いでは、単なる話し合いではなく、教科で大切にしたい見方・考え方が深まるよう「考える視点」を提示し、話題の焦点化を図ることができた。		・交流活動では、生徒の見方・考え方が深まるよう「考える視点」を提示し、話題の焦点化を図る。 ・ペア交流、班交流、シグソー法による交流等、学びを深めるために目的意識をもった交流活動を仕組む。
	主体的な態度の育成	基礎学力の向上に取り組む。	数学で習熟度別学習を実施し、個に応じた指導・援助を行っている。	100%	数学の少人数学習は、丁寧に分かりやすいか。(2・3年生のみ)	89%	90	・一人一人の習熟度を見届け、個に応じた指導助言ができた。しかし、定着までには至らない生徒が多いため、復習や家庭学習のあり方を考える必要がある。		・習熟度別少人数指導を進める上で、個に応じた指導のあり方を工夫する。 ・ICT等を活用し、よりわかりやすい指導を工夫する。
			家庭学習では、授業内容の定着につながる復習を徹底している。	60%	復習を中心とした家庭学習が、2時間以上できたか。(塾、家庭教師を含む)	79%	80	・各教科の宿題の見届けや取組を行い家庭学習の定着をはかった。家庭学習を2時間行うという習慣を身に付けていない生徒に対しての家庭学習の指導のあり方を考える必要がある。		・個に応じた指導を充実するため、個の能力に合わせた学習課題の提示を行い、学習の見届けを徹底する。 ・家庭学習では、授業内容の定着につながる復習を徹底する。
豊かな人間性	豊かな心と望ましい人間関係の情勢	学級活動、生徒会活動の充実と行事へ活気をもたせることに取り組む	学級で「絆」と「居場所」がもてる学級指導をしている。(教科担任も含む)	80%	学級での生活を楽しいと思うか。	85%	90	・落ち着いた学校・学級環境の中で過ごすことができ、行事等に一生懸命取り組む仲間が多く充実した学校での生活を送ることができている。	<ul style="list-style-type: none"> ・自己肯定感の高まりは、保護者の協力を得ながら、「学校」「生徒」「保護者」が一体となって取り組む必要がある。すぐに高まるものではないが、学校全体の取組を通して、継続的によさ見つけを行い、価値付けていく。 ・学級生活が楽しいと思う生徒が多いことはとてもよいことである。行事等に目的意識をもって取り組んでいる。生徒会を中心とした生徒中心とした活動や取組が増えてくることを期待する。 ・生徒会、生活委員を中心としたあいさつ活動は、とてもよい。気持ちのよい挨拶ができる生徒が増えてきた。継続した取組を期待する。 ・地域の運動会、福祉施設、地区センターまつりの手伝い等、地域の方と一体となって参加できる生徒が増えてきた。地域としても頼もしく思っている。地域とのつながりが、地域であいさつのできる子につながっていると感じる。 	・いぶきの時間、学級活動を充実させ、居場所のある支持的風土をつくる学級経営を目指す。生徒会を中心とした活動を仕組み、全校一体となって、仲間のよさに気づき、行動できる風土をつくる。
			よさを認め、自己肯定感を高めることのできる指導をしている。※いぶきの時間や昼の放送で認める。	85%	自分にはよいところがあると思うか。	62%	80	・1学期から、毎月自分のよさを見つけたり、よさを伸ばす取り組みをしてきたことを生徒に還元し、価値づけることを継続していく。		・自己肯定感の高まりを生むために、よさを価値付け、広めていく「私のいいね。」の活動を継続していく。目的主義に立った創り出す係り活動・学級活動の充実を図る。
			登下校、授業、部活動において、主体的な挨拶ができるように指導している。	75%	登下校、授業、部活動において、進んであいさつできたか。	87%	90	・生徒会・生活委員会を中心としたあいさつ運動を積極的に行った。授業、廊下、部活動等どのような場所でも挨拶ができる姿がとて増えてきた。		・今年度に引き続き、生徒会の取組を生かし、地域とのあいさつ運動を増やす。
			教育相談を月1回、実施し、給食後や放課後などの時間を使い積極的に相談活動をしている。	56%	先生は悩みごとや相談ごとを聞いてくれたか。	85%	95	・教育相談時だけでなく、日常から生徒の様子を見届け、価値付けていながら、声をもっとかけていけるとよい。		・教育相談を月に1回実施し、給食や放課後等時間を使い生徒と話す機会を増やす。
			マナーや規範意識を身につけさせるとともに、生徒理解に努め信頼関係を深めることに取り組む	95%	学校の規則が守られる指導をしているか。	95%	95	・教師の指導だけでなく、生徒会を中心に呼びかけ合う自治の気風ができつつある。規則が守られているよさを生徒に実感させたい。		・生徒会、生活委員会、学習委員会を中心とした取組を仕組む。生徒の自治から生まれる風土づくりを目指す。
			心を磨く(黙契、活動、振り返り)清掃指導をしている。	90%	進んで掃除に取り組み、学校を美しくすることができたか。	94%	95	・隅々までとても丁寧に掃除ができている。心を磨く取組(黙契、活動、振り返り)は継続してできている。学校文化として誇りをもって取り組む生徒をさらに価値付けいく。		・引き続き、生徒主体の運営と日常生活の充実に重点を置き、一人一人に所属感を持たせる。ただし、内容を精選し生徒の負担を減らし、重点化を進める
			ボランティア活動を推進し、学校と地域の連携に取り組む	30%	ボランティア活動や地域の行事に進んで参加できたか。	73%	85	・地域のボランティアにおいて、地域の取組に主体的に参加し、貢献できる姿が多く見られた。今後は、委員会、生徒会を中心として、さらに参加できる生徒を増やしたい。		・ボランティア活動の意義を生徒に伝え、地域と一体となって働ける姿を価値付けていく。 ・地域からの学校支援と学校からの地域支援の双方向のボランティアを展開する。
学校運営・危機管理	機能的な組織運営と危機管理体制の確立	統一的な理解と共通実践による機能的な組織運営に取り組む。	いじめアンケートを有効に活用し、安心した生活ができるようにしている。	84%	いじめについてのアンケート調査は安心して生活できることにつながったか。	88%	90	・学期に2回アンケートを行い、生徒の悩みを把握し、随時教育相談を行うことができた。しかし、アンケートを活用した心の教育を推進していく教師の指導力はつけていく必要がある。	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の悩みにいち早く気づき、早期発見・早期対応を目指し、いじめアンケートや教育相談週間を定期的に行っていくことを継続していく。 	・いじめアンケート調査の活用の仕方を全職員で共通理解を図り、場に応じた指導ができるよう、学年主任・生徒指導との連携をしながらチームで対応する。
			生徒が気軽に話しかけることのできる関係づくりをしている。また、欠席者や体調不良の生徒に対して積極的に家庭訪問をし保護者・生徒との良好な関係づくりをしている。	85%	先生から声を掛けられたか。また、体調が悪いときや欠席の時には、家庭訪問や電話連絡がもらえたか。	85%	90	・生徒の悩みに対して、親身になって声をかけることができた。今後もよい関係から、効果的な指導につなげていきたい。		・スクールカウンセラーとの連携、生徒指導・教育相談担当との連携をし、定期的なケース会議を開く。